

事例 ● **取組の名称** いつでも変わらず自分たちらしく **分類：** 居場所 アウトリーチ 相談 学習支援 見守り 住民主体

**運営団体基本情報**

● 運営団体名	12区楽生会	● 代表者名	佐藤 勇喜	● 所在地	栗原市高清水原18-24
● スタッフ構成	会員14名	● 運営財源	自主財源、自治会費より助成		
● 連絡先	TEL: 0228-58-3637 Mail: m-mituduka@kurihara-sfk.or.jp		● ホームページ (参考情報)		

**新型コロナウイルス感染症拡大前の事業概要**

● 対象者層	地区住民	● 活動頻度	毎週火・土曜日の週2回	● 活動場所	12区集会所
● 活動の形態	ゲートボール、健康維持、お茶飲み、見守り	● 平均利用者数	8名	● 利用料金	年会費1,000円

**[活動の特徴と新型コロナウイルス感染症対策]**

具体的な活動	● 新型コロナウイルス感染症拡大前	毎週火曜、土曜日の週2回、ゲートボールで体を動かしている。休憩時は持ち寄りの手作りおやつ等でお茶飲みをし、話語りをする。月例杯を開催し、会食会や年に2回の日帰り旅行も実施している。天候が悪い日でも必ず誰かが活動場所においてお茶飲み、話語りをすることで見守り・見守られの活動にもなっている。	● 活動経費	
	● 新型コロナウイルス感染症拡大後の取組と工夫	今までしてきたこの活動が生活の一部となっており、欠かせないものとなっているので、週2回の活動は変えていない。(おやつを持ち寄ってのお茶飲み、月例杯、会食会、日帰り旅行は中止) 感染拡大前と同じく、必ずメンバーの誰かが活動場所において、自然と会員が集まるようになっている。 ゲートボールを行う時は、マスクをしてあまり密にならないよう気をつけながらプレーしている。活動場所にはアルコール除菌を設置しているので、休憩時等こまめに消毒するのを心がけている。	● その他、特記事項	★市町村基本情報 宮城県栗原市 県北部に位置し、市の面積が県内最大の約800平方km。自然と四季のうつろいが大変美しい高原都市。 人口 66,565人 高齢化率39.7% (2020.4末)
	● 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす事ができたので、こもりきりにならず、ストレスもたまることがなかった</li> <li>・コロナ禍でも活動場所には誰かがいて、顔を見て話をする事ができたので、会員同士の安心にもつながった</li> <li>・つながりが切れる事もなく、見守り、見守られの活動も続けられた</li> </ul>		

